

開講

運営委員

一言感想

特集

YESニュース

第2号 発行日：2006年6月12日

特別支援教育 5月10日



昨年度に引き続き運営委員を担当しております。昨年度より受講者が増え、教育センターの教室は席が埋まっています。普通学級における特別教育のあり方について多くの先生が必要を感じているですね。長根先生のお話も例えがわかりやすく、毎回楽しみです。(渡邊宙美)

具体例をあげてのとてもわかりやすいお話にぐっと引き込まれました。障害児の不可解に見える行動には理由があり、それが解れば対応の仕方解ってくるのだということ。「そうだったんだ。」と光が見えてきた思いです。(寺田ふみ子)

今年度初の講座は、昨年度をさらに超える参加数に緊張を覚えました。講座は特別支援や自閉症について抽象をより具体化し、図やみじかなところから話を切り込んでいく長根先生に「だめはだめなのだ」なるほど！と思い熱く話す先生の姿に「 Powerful! 」と思いました。講座修了後も先生のもとへ色々な方々がお話していました。特別支援の必要性和学ぶ事の大事さを切実に思いました。先生を中心に堅苦しくなく、色々なことを皆さんと共有できる講座を創っていきたく思います。(中村一成)

昨年度初めて国語科講座に参加し、笠原先生の言葉の魔力にすつかりに魅せられてしまいました。笠原先生の実践はどれも具体的で、子どもの姿が見え、明日から早速やってみようかなという気になります。第一回目は「聞き耳文集」の実践で

国語科 5月13日開講



した。良い聞き手に育てるにはどんな話を子どもに聞かせたらいいのか、実際に子どもの立場になって話を聞き、その話を元に一枚文集作りにチャレンジしました。国語力の向上だけでなく、教師として本来求められるべき姿とは何かについても考えさせられる講座です。

(佐藤ひろみ)

3年目を迎えた国語科の第一回目の講座は38名の受講者参加の中、スタートしました。今年度は昨年度までの笠原先生の実践理論を実際に子どもの立場になって取り組んでみようということで、早速「聞き耳文集」づくりに取り組みました。受講者の皆さん一人ひとりがレイアウトを考えたり、自分なりの話の捉え方をもとに見出しを考えたりと今までやった事のない新鮮な取り組みに興味を持って取り組んでいた。(浜田哲也)

社会科講座は今年で3年目を迎えました。講座に参加し、講師の先生方や参加者の声を聞くといつも「明日から頑張ろう」という元気や希望をもらっています。(皆川吉次)

今年度から運営委員として参加しました。若い先生方が多く参加してくれ、これからの講座が楽しみになりました。4人の講師陣によるシンポジウムも有意義で、とても良いスタートになりました。(梅田比奈子)

社会科 5月17日開講



算数科 5月19日開講



オープニングシンポ。大切にしている事は同じなのに、個性輝く講師の先生の話が魅力です！実践を色々な角度から分析し学びたい。(間治子)

算数科講座の第一回目が行われました。講師は長嶋先生です。先生はご自身の経験はもとより、講師としての豊富な経験も合わせてお話くださいました。「こんなことやっちゃてませんか。」「ついやっちゃうんですよ。こういうふう。」と、先生がお話になると会場から笑い声がおこります。先生のお話が具体的に、自分もそういう経験があるなど感じるからでしょう。先生のお人柄もあり、とても楽しく時間が過ぎていきました。また、昨年引き続きご参加くださっているリピーターの方もたくさんいらっしゃいました。「昨年とは話を変えてグレードアップさせますよ。」という先生のお話どおり、昨年とはまったく違ったお話が伺えました。講座修了後、感想や要望を書きました。毎回の事ですが、先生にお話を聞いていただけるかと思うとワクワクします。研究授業の指導案をみて頂いている方もいらっしゃいました。「急ですみませんが。」とおっしゃる参加者の方に、「いいですよ」と気軽にお答えになる長嶋先生を見て、一人ひとり参加者を大切にくださっているお気持ちを感じました。(豊田 亮)

次号も引き続き6月開講講座の特集です。